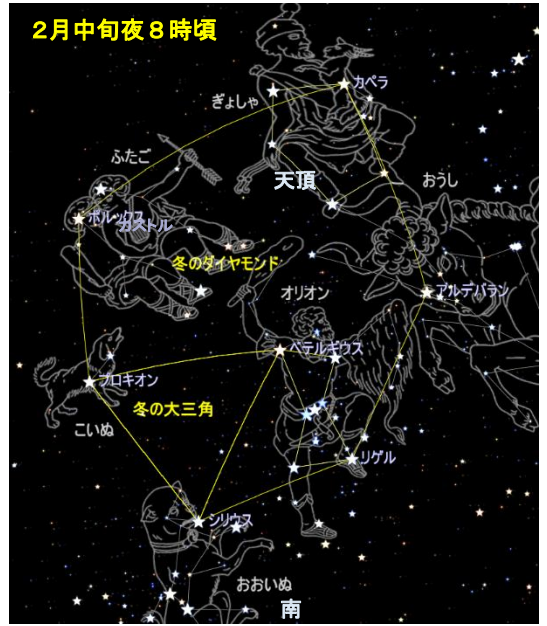




ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

2月中旬の夜8時頃、南の空にはまだ冬の星座たちが広がり、とても賑やかです。前回(第713号)紹介したとおり、冬の星座には7つの1等星があり、「オリオン座」のベテルギウス、「おおいぬ座」のシリウス、「こいぬ座」のプロキオンの3つの1等星を結んだ、よく自立つ《冬のダイヤモンド》を見つけると、他の4つの1等星も見つかります。まず、オリオン座の赤いベテルギウスを起点にすると、その下の串団子のように並ぶ《三つ星》を挟んだ逆側(三つ星の右下)に青白い1等星リゲルが見つかります。また、こいぬ座プロキオンを起点に、さらに空の高い方向へ視線を上げると、2つのよく似た明るさの星、「ふたご座」の1等星のポルクスと2等星のカストルが見つかります。ふたご座のこの2つの星を結んだ線を時計回りにたどると、天頂付近に「ぎょしゃ座」の黄色い1等星カペラと、その右下に「おうし座」のオレンジ色の1等星アルデバランが見つかります。このようにして見つけた6つの1等星、シリウス、プロキオン、ポルクス、カペラ、アルデバラン、リゲルを線でつないでできる六角形は、その形や美しさから、《冬のダイヤモンド》や《冬の六角形》と呼ばれています。

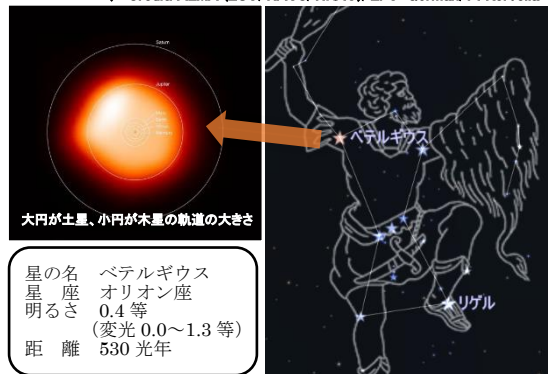


2月中旬夜8時頃

↓ Credit: ALMA (ESO/NAOJ/NRAO)/E. O' Gorman/P. Kervella

★ オリオン座 α 星「ベテルギウス」

オリオン座の肩で輝くベテルギウスは、恒星の進化の最終段階にある赤色超巨星で、表面温度は低く約3,600度ですが、恒星そのものが巨大なため、0.4等の明るさで輝く1等星です。質量は太陽の約20倍ほどですが、直径は太陽の約650~1,000倍もあると言われ、仮に750倍としたベテルギウスを太陽の位置に置くと、右図のとおり、地球の外側にある火星を超え、木星の軌道まで達するほどの大きさになるイメージです。ベテルギウスは恒星としての一生が終わりに近いため不安定な変光を繰り返す脈動変光星で、あと10万年もすれば、おそらく超新星爆発を起こし寿命を終えると考えられています。因みに、ベテルギウスという固有名は、国際天文学連合において正式に定められたものですが、その由来は諸説あり、はっきりしない不思議な名前です。



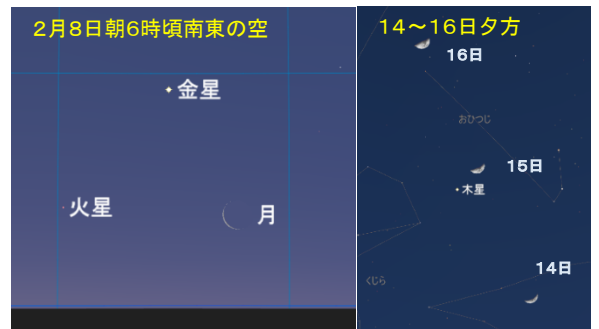
大円が土星、小円が木星の軌道の大きさ

星の名	ベテルギウス
星座	オリオン座
明るさ	0.4等 (変光 0.0~1.3等)
距離	530 光年

※星図はステラナビゲーター11を用いて作成

★ 今月の月と明るい惑星のランデブー

2月8日には、去年の後半から夜明け前の空で「明けの明星」として輝いている金星に、細い月が接近します。日の出前の東の低い空で、-4.7等で輝く金星と細い月が並び、目を引く光景となるでしょう。近くには見えにくいですが火星も並んでいます。日の入り後は、南西の高い空に-2等に輝く木星が見えてきます。2月中旬頃には、この明るい木星に三日月よりも太くて舟のような形をした月が近づく印象的な光景を、ぜひ観察してみてください。



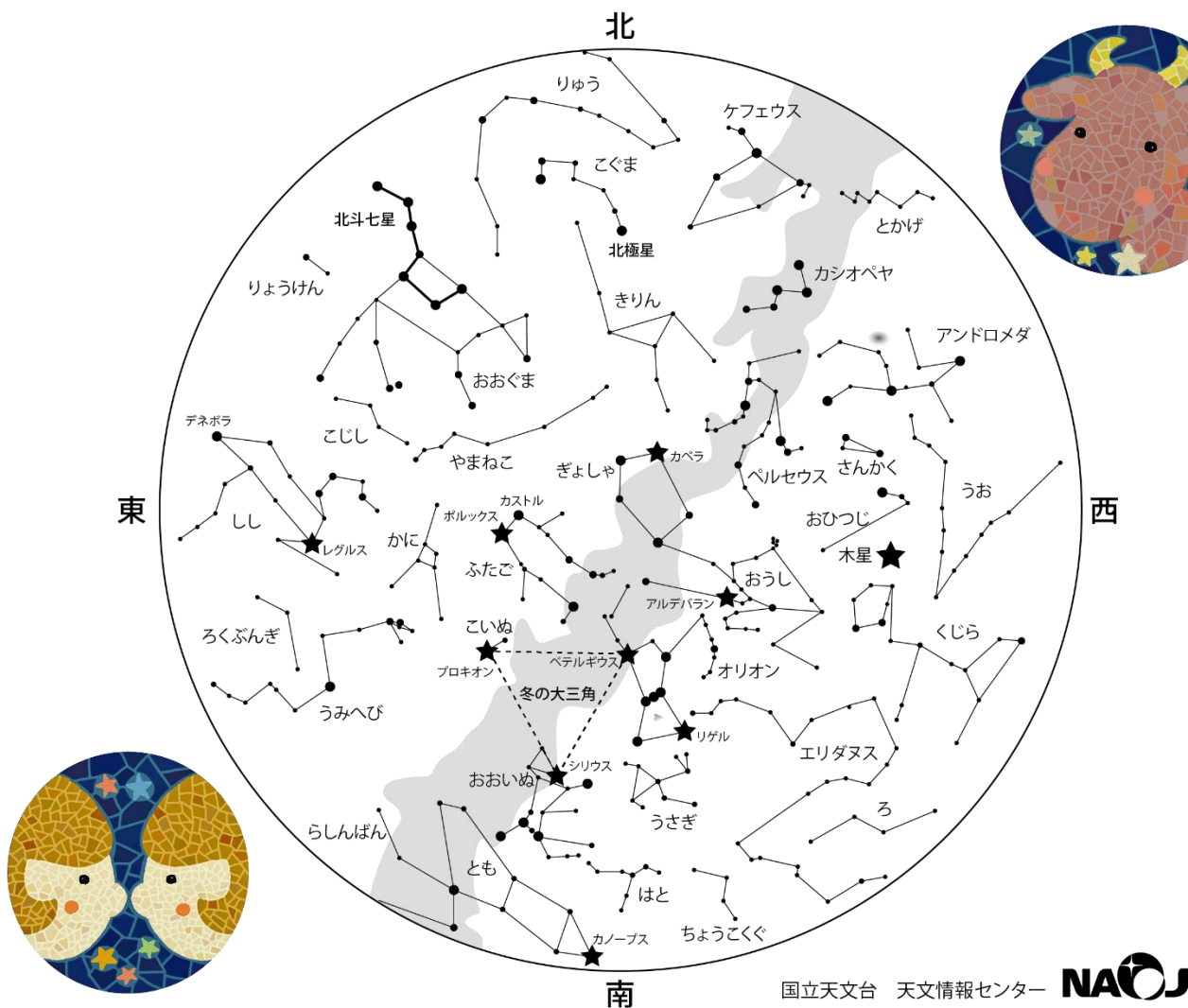
月は大きさを強調して描いています。

★ 2月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください ☆☆

★ プラネタリウムのお休み

2/5(月)、13(火)、19(月)、21(水)、26(月)、27(火)

2月上旬午後9時頃の星空



★ 2月上旬の主な天文現象

3日(土) ㊦ 下弦	8日(木) 細い月と金星が並ぶ
4日(日) 立春	10日(土) 新月
5日(月) 白昼のアンタレス食 (豊川市では隠れません)	15日(木) 月と木星が接近

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 2/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 2月 2日(金) [見やすさ◎]	18:26 北西 ~ 18:31 東南東 (ISS)
◇ 2月 4日(日) [見やすさ◎]	18:27 西北西 ~ 18:33 南南東 (ISS)
◇ 2月 5日(月) [見やすさ◎]	5:42 南西 ~ 5:48 東北東 (CSS)
◇ 2月 7日(水) [見やすさ◎]	5:18 天頂 ~ 5:21 東北東 (CSS)

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) 中国宇宙ステーション (CSS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。